

2018年1月14日

## 福音書からのメッセージ

その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。

(ヨハネによる福音書1章43節)

イエス様の弟子になるとはどういうことでしょうか。今日の福音書には、フィリポとナタナエルがイエス様の弟子になる場面が描かれています。そこからイエス様の弟子になることについて、考えていきたいと思います。

誰かの弟子になるとは、技術だけを盗むということではありません。多くの場合、先生である人と共に過ごし、生き方もあわせて学ぶのではないのでしょうか。イエス様と弟子たちはいつも一緒にいました。弟子たちは、言葉によって何かを伝えられただけではなく、イエス様の背中を見て学んだのです。そして自分たちはどう生きるべきか、知ったのではないのでしょうか。

わたしの持っているストラップに、WWJD と彫られたものがあります。WWJDとは「What Would Jesus Do?」の頭文字です。つまり、イエス様ならどうする? という意味になります。もしここにイエス様がいたらどうするだろう、そう思いながら行動するのです。イエス様の弟子とは、イエス様に倣って生きる人のことです。イエス様がそうであったように、どうしようもない貧しさの中にある人、涙の中で途方にくれている人、人として認められずつまはじきされてしまった人のところに向かうのです。そう考えると、イエス様の弟子になることは、とても大変なことです。イエス様のように今必要としている人々のそばに行き、手を差し伸べることなどできるのだろうかと思うかもしれません。あなたがイエス様の代わりをしなさいと言われているのであれば、そうでしょう。



フィリポはイエス様の弟子になりました。しかしフィリポが努力してイエス様を見つけ、弟子にしてもらったわけではありません。イエス様がフィリポに出会い、「わたしに従いなさい」と言われたのです。

フィリポはただ一方的にイエス様に見つけられ、招かれ、そして従いました。イエス様はフィリポに、何も特別なことを求めています。ただ自分に従うこと、それだけでした。「わたしと一緒にいなさい」、それがイエス様の招きでした。

イエス様の招きに従い、イエス様と共に歩む。それがイエス様の弟子の姿です。独り立ちし、イエス様に代わって人々に接することが目的ではないのです。つらく、苦しいときには、イエス様が支えてくださる。「大丈夫、わたしがそばにいる」といつも約束してくださる。そのようなイエス様と出会うこと、それがイエス様の弟子となることです。

そしてフィリポがナタナエルを呼んだように、わたしたちもまた、苦しむ人、悲しむ人のところに行き、「大丈夫、イエス様がいてくださる」と宣言する、それだけでいいのです。それがイエス様の弟子としてなすべきことなのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>